ICT活用工事(土工)積算要領

1. 適用範囲

本資料は、以下に示すICTによる土工(以下、土工(ICT))に適用する。 積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。

- ・掘削 (ICT) (河床等掘削を除く)
- ·路体(築堤)盛土(ICT)
- · 路床盛土 (I C T)
- · 法面整形 (ICT)

なお、土量が 1,000m3 未満の場合は、「I C T 活用工事(土工 1000m3 未満)積算要領」によるものとする。また、現場条件によって「2-1 機械経費」に示す ICT 建設機械の規格よりも小さい ICT 建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。

2. 機械経費

2-1 機械経費

土工 (ICT) の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、土木工事標準 積算基準書の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

①掘削(ICT)、法面整形(ICT)

ICT建設機械名	規格	機械経費	備考
バックホウ (クローラ型)	標準型・ICT施工対応 型・超低騒音型・クレー ン機能付き・排出ガス対 策型(2014年規制)山積 0.8m3(平積 0.6m3) 吊能力 2.9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上
	標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制) 山積 1.3~1.5m3 (平積 1.0~1.2m3)	損料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上

②路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土(ICT)

ICT建設機械名	規格	機械経費	備考
- 7 n. lv. 4F	湿地・ICT施工対応型・	任率ロップ型 L	ICT 建設機械経費加
ブルドーザ	排出ガス対策型(2011 年規	賃料にて計上	算額は別途計上

制) · 7 t 級	
湿地・ICT施工対応型・	
排出ガス対策型(2011 年規	賃料にて計上
制)・16 t級	

※2-1機械経費のうち、賃料にて計上するICT施工対応型の機械経費には、地上の 基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。

2-2 ICT 建設機械経費加算額

2-2-1 賃料加算額

ICT 建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1機械経費のうち賃料にて計上する ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

(1) 掘削 (ICT)、法面整形 (ICT)

対象建設機械:バックホウ(ICT施工対応型)

賃料加算額:13,000円/日

(2) 路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土(ICT)

対象建設機械:ブルドーザ(ICT施工対応型)

賃料加算額:13,000円/日

2-2-2 損料加算額

ICT建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1機械経費のうち損料にて計上するICT建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

(1) 掘削(ICT)

対象建設機械:バックホウ

損料加算額:41,000円/日

2-3 その他

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

2-3-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

(1) 掘削 (ICT)

保守点検費 = 土木一般世話役(円) \times 0.05(人/日) \times 施上数量(m3) 作業日当り標準作業量(m3/日)

- (注) 作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。
- (注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。
- (2) 法面整形工(ICT)

保守点検費 = 土木一般世話役(円)× 0.05(人/日) × 作業日当り標準作業量(m2/日)

- (注) 作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。
- (注) 施工数量は、ICT施工の数量とする。

(3) 路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土(ICT)

保守点検費 = 土木一般世話役(円)× 0.07(人/日)× -

施工数量(m3)

作業日当り標準作業量(m3/日)

- (注) 作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。
- (注)施工数量は、ICT施工の数量とする。

2-3-2 システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

(1) 掘削 (ICT)、法面整形 (ICT)

対象建設機械:バックホウ

費用:598,000円/式

(2) 路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土(ICT)

対象建設機械:ブルドーザ

費用:548,000円/式

システム初期費については1工事当り使用機種毎に一式計上とする(施工箇所が点在する工事の場合は、箇所毎に計上するのではなく、1工事当り使用機種毎に一式計上とする。)

3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理 費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。

発注者指定型における当初積算方法については、算定式を用いて積算計上し、現場での 実績により、変更するものとする。

- 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用
 - (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を 行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正 係数を乗じるものとする。・共通仮設費率補正係数 : 1.2
 - •現場管理費率補正係数 : 1.1

※小数点第3位四捨五入2位止め

上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)~5)又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測とし、ICT活用工事(土工)実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。

- 1)空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理
- 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 3)無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理

- 5) 上記1) ~4) に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理
- (2) 費用計上にあたっての留意事項
 - 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。
 - 2)受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、 外注経費等の費用は計上しないものとする。

5. 発注者指定型における積算方法

掘削 (ICT) は、ICT 建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]」という。)と通常建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (通常)」という。)を用いて積 算するものとする。

5-1 掘削 (ICT) の施工数量 50,000m3 未満における積算

当初積算時に計上する施工数量は、官積算工程において必要な施工日数から計上割合を設定し、その計上割合により施工数量を計上するものとする。

変更積算は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。

なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 以上となるものについても施工数量に応じて変更 を行うものとする。

また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

5-1-1 当初積算

(1) ICT 土工にかかる施工日数の算出

施工数量(m3)を作業日当り標準作業量(m3/日)で除した値を施工日数とする。 なお、施工日数は、小数点第1位を切り上げた整数とする。

(2) 計上割合の設定

(1) で求めた施工日数から表-1により、計上割合を設定する。

表-1 施工数量50,000m3未満における掘削(ICT) の計上割合

施工日数	割合
20日未満	100%
20日以上60日未満	50%
60日以上	25%

(3) 施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に計上割合を乗じた値を ICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機械 使用割合 100%]) の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機 械使用割合 100%]) を引いた値を通常施工 (掘削 (通常)) の施工数量とする。

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は「土木工事標準積算基準

書(共通編)」第5章 数値基準等によるものとする。

5-1-2 変更積算

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

(1) ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数(使用台数)を ICT 施工に要した全施工日数(ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数)で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。

(2)変更施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合 100%])の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合 100%])を引いた値を通常施工(掘削(通常))の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の25%をICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合100%])により変更設計書に計上するものとする。

(注)当初および変更の積算については、別添 「掘削 (ICT) における積算」を参照 5-2 掘削 (ICT) の施工数量 50,000m3 以上における積算

当初積算時に計上する施工数量は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の 25%を ICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合 100%])により設計書に計上するものと する。

なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更するものとする。

また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

5-2-1 当初積算

(1) 施工数量の算出

全施工数量に25%を乗じた値をICT施工(掘削(ICT)[ICT建設機械使用割合100%]) の施工数量とし、全施工数量からICT施工(掘削(ICT)[ICT建設機械使用割合100%]) を引いた値を通常施工(掘削(通常))の施工数量とする。

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は「土木工事標準積算基準 書 共通編 第5章 数値基準等」によるものとする。

5-2-2 変更積算

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

(1) ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数(使用台数)を ICT 施工に要した全施工日数(ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数)で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。

(2)変更施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合 100%])の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合 100%])を引いた値を通常施工(掘削(通常))の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の25%をICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合100%])により変更設計書に計上するものとする。

(注) 当初および変更の積算については、別添 「掘削 (ICT) における積算」を参照

6. 施工者希望型における変更積算方法

受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。

掘削(ICT)の変更積算は、ICT 建設機械による施工歩掛(以下、「掘削(ICT)[ICT 建設機械 使用割合 100%]」という。)と通常建設機械による施工歩掛(以下、「掘削(通常)」という。)を 用いて積算するものとする。

6-1 変更積算

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

①ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数(使用台数)を ICT 施工に要した全施工日数(ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数)で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。

②変更施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%])の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%])を引いた値を通常施工 (掘削 (通常))の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

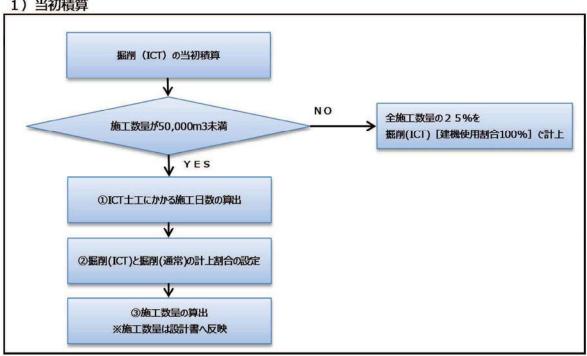
なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の25%をICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合100%])により変更設計書に計上するものとする。

(注)変更の積算については、別添 「掘削 (ICT) における積算」を参照

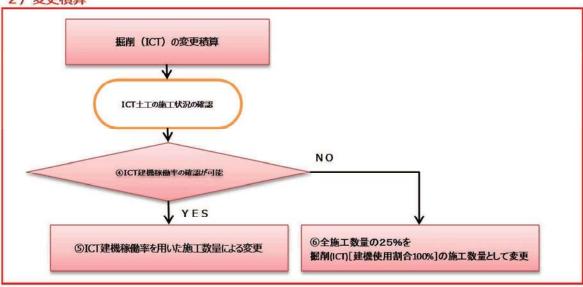
掘削(ICT)における積算

1. 当初積算と変更積算までの流れ

1) 当初積算



2)変更積算



2. 施工箇所が点在する工事の積算について

施工箇所が点在する工事については、「土木工事標準積算基準書(共通編)」第11章 施工箇所 が点在する工事の積算によるものとする。

注)積算例の当初積算は、発注者指定型のみ対象となり、変更積算は、発注者指定型および施工者希望型ともに対象となります。

【積算例1】※掘削(ICT)の施工数量50,000m3未満における積算 ICT 土工の全施工数量を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合100%]で計上する事例

1) 当初積算

(積算条件)

施工数量:10,000m3

ICT 標準作業量: 330m3/日

施工班数:2班

土質:土砂

施工方法:オープンカット

障害の有無:無し

①ICT 土工にかかる施工日数の算出

 \cdot 10,000m3 ÷ 330m3/ \exists ÷ 2 = 15.1 \Rightarrow 16 \exists

②掘削 (ICT) と掘削 (通常) の計上割合の設定

算定した 16 日は、「 ICT 活用工事 (土工) 積算要領 J4 - 1 ② 表 - 1 施工数量 50,000m3 未満における掘削 (ICT) の計上割合から、「施工日数 20 日未満」となるため、掘削 (ICT) の計上割合は、100%を設定する。

③施工数量の算出

 $\cdot 10,000 \text{m3} \times 100\% = 10,000 \text{m3}$

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上(イメージ)

	細別	単位	数量
掘削(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	10,000

2) 変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ICT 建機稼働率の確認

- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が有り、監督職員の確認が取れている場合は、 ⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。
- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合100%] の施工数量として変更を行う。

⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1全施工数量をICT建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	6
通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	6

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

·6 (ICT 建機) ÷ 6 (延べ使用台数) = 1.00

 $\cdot 10,000 \text{m3} \times 1.00 = 10,000 \text{m3}$

【設計書への反映】

土工(ICT)の掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上 (イメージ)

	細別	単位	数量
掘削(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	10,000

⑤-2施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	9
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	3

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

·6 (ICT 建機) ÷ 9 (延べ使用台数) = 0.666 ⇒ 0.66

·10,000m3 × 0.66 = 6,600m3 (ICT 建機)

·10,000m3 - 6,600m3 = 3,400m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上(イメージ)

		細別	単位	数量
掘削	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	10,000 6,600
掘削	[通常]		m3	0 3,400

⑥全施工数量の 25%を掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として変更

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	2
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	•

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

- ※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の25%とする。
 - ·10,000m3 × 25% = 2,500m3 (ICT 建機)
 - ·10,000m3 2,500m3 = 7,500m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上(イメージ)

		細別	単位	数量
掘削	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	10,000 2,500
掘削	[通常]		m3	0 7,500

3)施工数量が50,000m3以上となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が 50,000m3 以上となるものについても、施工数量に応じて変更を行うものとする。

【積算例 2】※掘削 (ICT) の施工数量 50,000m3 未満における積算

ICT 土工の施工数量を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削(通常)に分けて計上する事例

1) 当初積算

(積算条件)

施工数量:10,000m3

ICT 標準作業量: 330m3/日

施工班数:1班

土質:土砂

施工方法:オープンカット

障害の有無:無し

①ICT 土工にかかる施工日数の算出

 \cdot 10,000m3 ÷ 330m3/ \exists ÷ 1 = 30.3 ⇒ 31 \exists

②掘削 (ICT) と掘削 (通常) の計上割合の設定

算定した31日は、「別紙 - 6 ICT活用工事(土工)積算要領」4 - 1 ② 表 - 1 施工数量 50,000m3 未満における掘削(ICT)の計上割合から、「施工日数 20 日以上 60 日未満」となるため、掘削(ICT)の計上割合は、50%を設定する。

③施工数量の算出

- ·10,000m3 × 50% = 5,000m3 (ICT 建機)
- ·10,000m3 5,000m3 = 5,000m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。設計書の計上 (イメージ)

		細別	単位	数量
掘削	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	5,000
掘削	(通常)		m3	5,000

2)変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ICT 建機稼働率の確認

- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が有り、監督職員の確認が取れている場合は、 ⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。
- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合100%] の施工数量として変更を行う。

⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1全施工数量をICT建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	6
通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	b

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

·6 (ICT 建機) ÷ 6 (延べ使用台数) = 1.00

 $\cdot 10,000$ m3 \times 1. 00 = 10,000m3

【設計書への反映】

土工(ICT)の掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上(イメージ)

		細別	単位	数量
掘削(ICT)	 [ICT建機使用割合100%]	m3	5,000	
	(101)	[10]建機使用割占100%]	כווו	10,000
掘削	(通常)		m3	5,000
ניא באני	(地市)		1113	0

⑤ - 2施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

~/X 11/3 1/C1	4 2 4 15 1502	C15C+2 5-C1 1	(1)	,					
	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	g
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	9

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

- ・6 (ICT 建機) ÷ 9 (延べ使用台数) = 0.666 ⇒ 0.66
- ·10,000m3 × 0.66 = 6,600m3 (ICT 建機)
- ·10,000m3 6,600m3 = 3,400m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工(ICT)の掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削(通常)により、計上する。

設計書の計上 (イメージ)

		細別	単位	数量
掘削(IC	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	5,000
	(101)	[10]建械使用剖白100%]	1113	6,600
掘削	(通常)		m3	5,000
加田川	(通市)		1113	3,400

⑥全施工数量の 25%を掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として変更

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	2
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	•

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

- ※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の25%とする。
 - ·10,000m3 × 25% = 2,500m3 (ICT 建機)
 - ·10,000m3 2,500m3 = 7,500m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上 (イメージ)

		細別	単位	数量
掘削	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	5,000
	(101)	[[[]] 建械使用剖白[[]] [[]]	1113	2,500
掘削	(通常)		m3	5,000
נוחשת	(中型)		כווו	7,500

3) 施工数量が 50,000m3 以上となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が 50,000m3 以上となるものについても、施工数量に応じて変更を行うものとする。

【積算例3】※掘削(ICT)の施工数量50,000m3未満における積算

ICT 土工の全施工数量の 25%を掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として計上する事例

1) 当初積算

(積算条件)

施工数量: 20,000m3

ICT 標準作業量: 330m3/日

施工班数:1班

土質:土砂

施工方法:オープンカット

障害の有無:無し

①ICT 土工にかかる施工日数の算出

 \cdot 20,000m3 ÷ 330m3/ \exists ÷ 1 = 60.6 ⇒ 61 \exists

②掘削 (ICT) と掘削 (通常) の計上割合の設定

算定した61日は、「別紙 - 6 ICT活用工事(土工)積算要領」4 - 1 ② 表 - 1 施工数量 50,000m3 未満における掘削(ICT)の計上割合から、「施工日数 60 日以上」となるため、掘削(ICT)の計上割合は、25%を設定する。

③施工数量の算出

- ·20,000m3 × 25% = 5,000m3 (ICT 建機)
- ·20,000m3 5,000m3 = 15,000m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。設計書の計上 (イメージ)

	細別	単位	数量
掘削(IC	T) [ICT建機使用割合100%]	m3	5,000
掘削(通		m3	15,000

2)変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ICT 建機稼働率の確認

・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が有り、監督職員の確認が取れている場合は、

⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。

・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合100%] の施工数量として変更を行う。

⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1全施工数量をICT建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	6
通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

·6 (ICT 建機) ÷ 6 (延べ使用台数) = 1.00

 $\cdot 20,000$ m3 \times 1. 0 0 = 20,000m3

【設計書への反映】

土工(ICT)の掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上(イメージ)

		細別	単位	数量
掘削(I	(ICT)	 [ICT建機使用割合100%]	m3	5,000
	(101)	[10]建機使用剖白100%]	1113	20,000
掘削	(通常)		m3	15,000
נירושונ	(地市)		1113	0

⑤ - 2施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

~ T I / J J J L I		C19407 9-41 1	(1)	,					
	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	g
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	1 "

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

・6 (ICT 建機) ÷ 9 (延べ使用台数) = 0.666 ⇒ 0.66

·20,000m3 × 0.66 = 13,200m3 (ICT 建機)

·20,000m3 - 13,200m3 = 6,800m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上 (イメージ)

	3 2 2 1 1			
		細別	単位	数量
掘削((ICT)		m3	5,000
	(ICT)	[10]建械使用剖台100%]	1113	13,200
堀削	(通常)		m3	15,000
掘削	(一一)	币 /		6,800

⑥全施工数量の 25%を掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として変更

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	2
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	•

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の25%とする。

·20,000m3 × 25% = 5,000m3 (ICT 建機)

·20,000m3 - 5,000m3 = 15,000m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。設計書の計上 (イメージ)

		細別	単位	数量
掘削	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	5,000
掘削	(通常)		m3	15,000

3) 施工数量が 50,000m3 以上となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が 50,000m3 以上となるものについても、施工数量に応じて変更 を行うものとする。 【積算例4】※掘削(ICT)の施工数量50,000m3以上における積算

ICT 土工の全施工数量の 25%を掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として計上 する事例

1) 当初積算

(積算条件)

施工数量:50,000m3

ICT 標準作業量: 330m3/日

施工班数:3班

土質:土砂

施工方法:オープンカット

障害の有無:無し

①施工数量の算出

·50,000m3 × 25% = 12,500m3 (ICT 建機)

·50,000m3 - 12,500m3 = 37,500m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工(ICT)の掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削(通常)により、計上する。 設計書の計上(イメージ)

		細別	単位	数量
掘削	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	12,500
掘削	(通常)		m3	37,500

2)変更積算 ※事例は数量変更が無い場合

④ICT 建機稼働率の確認

- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が有り、監督職員の確認が取れている場合は、 ⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更を行う。
- ・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合は、⑥全施工数量の25%を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合100%] の施工数量として変更を行う。

⑤ICT 建機稼働率を用いた施工数量による変更

⑤-1全施工数量をICT建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

		2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
	ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	6
Γ	通常建機	0	0	休工	休工	0	0	0	0	6

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

· 6 (ICT 建機) ÷ 6 (延べ使用台数) = 1.00

 \cdot 50,000m3 \times 1. 0 0 = 50,000m3

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] により、計上する。

設計書の計上(イメージ)

		細別	単位	数量
掘削(ICT)		 [ICT建機使用割合100%]	m3	12,500
		[[巴]建機使用剖白100%]	1113	50,000
掘削	(通常)		m3	37,500
が出日が	(地市)		1113	0

⑤ – 2施工数量の一部を通常建機により施工した場合

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	1	休工	休工	1	1	2	6	9
通常建機	1	1	休工	休工	1	0	0	3	9

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

・6 (ICT 建機) ÷ 9 (延べ使用台数) = 0.666 ⇒ 0.66

·50,000m3 × 0.66 = 33,000m3 (ICT 建機)

·50,000m3 - 33,000m3 = 17,000m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。

設計書の計上(イメージ)

		細別	単位	数量
掘削(ICT)		 [ICT建機使用割合100%]	m3	12,500
加出日リ	(ICT)	[10]建機使用剖白100%]	1113	33,000
掘削	(通常)		m3	37,500
加出日山	(地市)		כווו	17,000

⑥全施工数量の 25%を掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として変更

受注者が提出する稼働実績の資料 (イメージ)

	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	台数	延べ 使用台数
ICT建機	1	?	休工	休工	?	1	2	?	2
通常建機	?	1	休工	休工	1	0	0	?	•

【ICT 建機稼働率、施工数量の算出】

※稼働実績が適正と認められないため、全施工数量の25%とする。

·50,000m3 × 25% = 12,500m3 (ICT 建機)

·50,000m3 - 12,500m3 = 37,500m3 (通常建機)

【設計書への反映】

土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。設計書の計上 (イメージ)

		細別	単位	数量
掘削	(ICT)	[ICT建機使用割合100%]	m3	12,500
掘削	(通常)		m3	37,500

3) 施工数量が 50,000m3 未満となった場合の変更積算

施工条件等の変更に伴い、施工数量が 50,000m3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更 を行うものとする。

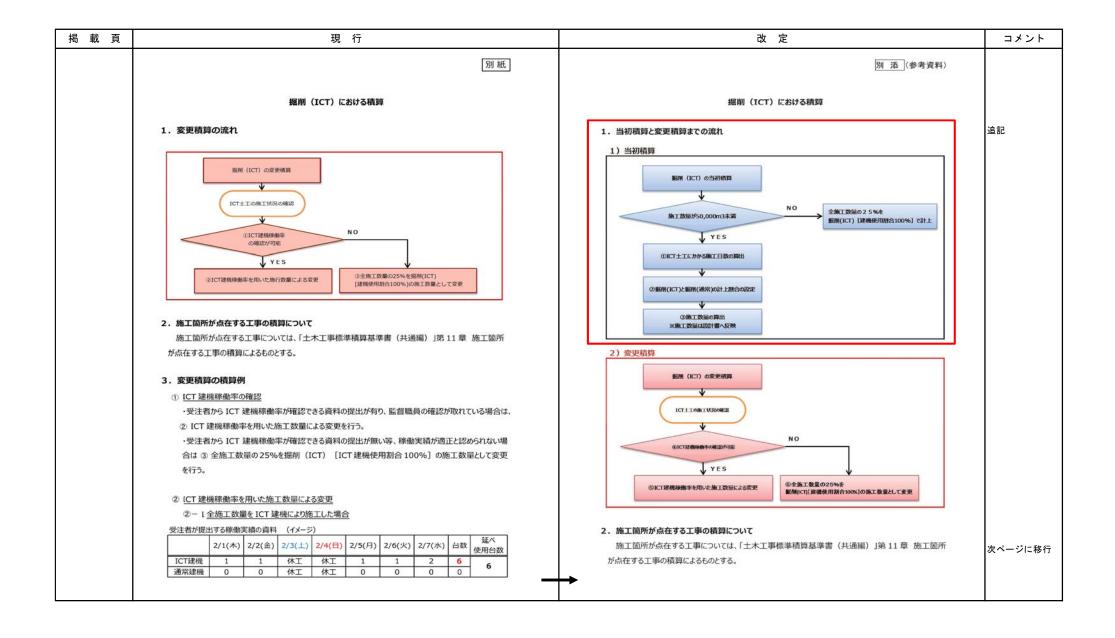
	現行				改定			
			【別添3】					
	I C T活用工事(土工)	積算要領			I C T活用工事 (土工) 程	資算要領		
植算にあたっては、施・掘削(ICT)(河床・路体(築堤)盛土(・路床盛土(ICT)・法面整形(ICT)なお、現場条件によっつ設機械を用いる場合は、100。	○ Tによる土工(以下、土工 パッケージ型積算基準により。 等掘削を除く)	(ICT)) に適用 行うこととする。 ICT 建設機械の規格 らず、見積りを活用 核経費は、以下のと 定表」、賃料につい	各よりも小さい ICT 建 用し積算することとす とおりとする。 では、土木工事標準	積算にあたっては、施工/ ・掘削 (I C T) (河床等 ・路体 (築堤) 盛土 (I C ・路床盛土 (I C T) ・法面整形 (I C T) ・法面整形 (I C T) なお、土量が 1,000m3 元によるものとする。また、格よりも小さい ICT 建計を活用し積算することとった。 2. 機械経費 2 − 1 機械経費 土工 (I C T) の積算・	CT) 未満の場合は、「ICT活用] 現場条件によって「2-1 投機械を用いる場合は、施工/	「 うこととする。 工事 (土工 1000mi 機械経費」に示っ ベッケージ型積算基	3 未満) 積算要額」 ナ ICT 建設機械の規 :準によらず、見積り	追
①掘削 (ICT)、	1	_		territoria i i i i i i i i i i i i i i i i i i	工事費の積算」①直接工事費	により算定するも	のとする。	
ICT建設機械	規格 標準型・ICT施工対応	機械経費	備考	①掘削(ICT)、法	T T	169 1-1 57 dh	No se	規格
バックホウ (クローラ型)	型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(2011 年規 制) 山積 0.8m3(平積 0.6m3)	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上	I C T 建設機械名	規格 標準型・I C T 施工対応 型・超低騒音型・クレー ン機能付き・排出ガス対 策型(2014 年規制) 山積	機械経費賃料にて計上	備考 ICT 建設機械経費加 算額は別途計上	
	標準型・排出ガス対策型 (第一次基準値) 山積 1.4m3 (平積 1.0m3)	損料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上	バックホウ (クローラ型)	0.8m3(平積 0.6m3) <u>品能力 2.9t</u>			
②路体(築堤)盛	: (ICT) 、路床盛土 (IC	T)			標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制)		ICT 建設機械経費加	
ICT建設機械		機械経費	備考		山稽 1.3~1.5m3	損料にて計上	算額は別途計上	
	湿地・ICT施工対応型・ 排出ガス対策型(2011 年規	賃料にて計上			(平積 1, 0~1, 2m3)	38.V		
	制) • 7 t級		ICT 建設機械経費加		(ICT)、路床盛土(ICT		Min size	
ブルドーザ			算額は別途計上	ICT建設機械名	規格	機械経費	備考	

 現行	改 定	
(注)作業日当り標準作業量は「第1編第14章その他①作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。 (注)施工数量は、ICT施工の数量とする。 2-3-2 システム初期費 ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 (1)掘削(ICT)、法面整形(ICT) 対象建設機械:バックホウ費用:598,000円/式 (2)路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土(ICT) 対象建設機械:ブルドーザ費用:548,000円/式 ※システム初期費については1工事当り使用機種毎に一式計上とする(施工箇所が点在する工事の場合は、箇所ごとに計上するのではなく、1工事当り使用機種毎に一式計上とする)。 3.3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。	修正なし	
4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め なお、土工(1CT)において、経費の計上が適用となる出来形管理は、以下の1)~5) 又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測とし、それ以外の、1CT活用工事(土工)実施要領に示された、出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。 1)空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2)地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3)無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4)地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5)上記1)~4)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理	4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五人2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1) ~ 5) 又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測とし、ICT活用工事(土工)実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理	文言修正 次ページに移行

掲載頁	現行	改 定	コメント
		 5)上記1)~4)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出來形管理 (2)費用計上にあたっての留意事項 1)3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出來形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2)受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出來形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。 	追記
		5. 発注者指定型における積算方法 掘削 (ICT) は、ICT 建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]]という。)と通常建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (通常)」という。)を用いて積算するものとする。 5-1 掘削 (ICT) の施工数量 50,000m3 未満における積算当初積算時に計上する施工数量は、官積算工程において必要な施工日数から計上割合を設定し、その計上割合により施工数量を計上するものとする。変更積算は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 以上となるものについても施工数量に応じて変更を行うものとする。また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。 5-1-1 当初積算 (1) ICT 土工にかかる施工日数の算出施工数量(m3)を作業日当り標準作業量(m3/日)で除した値を施工日数とする。なお、施工日数は、小数点第1位を切り上げた整数とする。 (2) 計上割合の設定 (1) で求めた施工日数から表-1により、計上割合を設定する。表-1 施工数量の00m3未満における掘削 (ICT) の計上割合施工日数 割合 20日以上 20日以上 25% (3) 施工数量の第出 ICT 土工の全施工数量に計上割合を乗じた値を ICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%])の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%])の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%])の施工数量とし、全施工数量とし、数位は「土木工事標準積算基準	追記

掲載頁	現 行	改定	コメント
内 · 取 · 只	256. 11	古 (共通報)] 第5章 数値基準等によるものとする。 5-1-2 変更積算 現場での1に 施工の実績により、変更するものとする。 (1) ICT 土工にかっる ICT 建設機械接触中の設計 ICT 生設機械による施工日数 (使用台数)を1CT 施工保験域に通常生設機域による施工日数 (使用台数)を1CT 施工保験域を増率とする。 なお。ICT 建設機械保験等率は、小数点第3位を切り着で小数点第2位止とする。 (2) 変更施工数量の算出 ICT 土工の全施工業能に ICT 建設機械接触中を乗じた値を ICT 施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%])の正式数とし、全塩工数量から ICT 施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械保険等率を乗じた値を1CT 施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械保険等率を乗じた値は固括五人した数値とし、数位は当初積算に準するものとする。 ICT 建立工主実施しているが、ICT 建設機械保険等率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合 100%]) により変更設計書に計上するものとする。 (注) 当初ましび変更の相算については、別部 「部例 (ICT) における積算」を参照 5-2 据例 (ICT) 原正工数量が (2%の 「部例 (ICT) における積算」を参照 5-2 据例 (ICT) 原正工数量が (2%の 「部例 (ICT) における積算」を参照 5-2 据例 (ICT) 原正工数量が (2%の 「部例 (ICT) における積算」を参照 5-2 据例 (ICT) に「正は定機械使用割合 100%]) により設計書に計上するものとする。 なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更するものとする。 たれ、変更に伴い施工数量が 50,000m3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更するものとする。 5-2-1 当初積算 (1) 施工数量の算出 全施工数据に25%を乗じた値をICT施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) の施工数量とし、全施工数据に25%を乗じた値をICT施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) の施工数量とし、全施工数据に25%を実じた値をICT施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) を別いに値を通常能に25%を実じた値をICT施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) を別いに値を通常能に25%を実定となをICT施工 (総例 (ICT) [ICT 建設機械機械をIFT (ICT) 建設機械機械の施工 (ICT) 建設機械をIFT (ICT) 建設機械をIFT (ICT) 建設機械をIFT (ICT) 建設機械をIFT (ICT) 建設機械機能率とする。	追記

掲載頁	現行	改 定	コメント
		なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。 (2) 変更施工数量の算出 ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合100%])の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工(掘削(ICT)[ICT 建設機械使用割合100%])を引いた値を通常施工(掘削(通常))の施工数量とする。 ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるも	追記
		のとする。 なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の25%をICT 施工 (掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合100%]) により変更設計書に計上するものとする。 (注) 当初および変更の積算については、別添 「掘削 (ICT) における積算」を参照	
		5. 施工者希望型における変更積算方法 受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応 じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。 掘削 (ICT) の変更積算は、ICT 建設機械による施工歩掛(以下、「掘削(ICT) [ICT 建設機械 使用割合 100%]」という。)と通常建設機械による施工歩掛(以下、「掘削(通常)」という。)を 用いて積算するものとする。	
		6-1 変更積算 現場でのICT 施工の実績により、変更するものとする。 ①ICT 上工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出 ICT 建設機械による施工日数 (使用台数) を ICT 施工に要した全施工日数 (ICT 建設機械を働率と対し、 で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。 なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。 ②変更施工数量の算出	
		ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工 (据削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工 (網削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) を引いた値を通常施工 (掘削 (通常)) の施工数量とする。 ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。 なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の25%を	
		ICT 施工(掘削(ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) により変更設計書に計上するものとする。 (注)変更の積算については、別添 「掘削(ICT) における積算」を参照	



掲載頁 現行	改定	コメント
	注)積算例の当初積算は、発注者指定型のみ対象となり、変更積算は、発注者指定型および施工者希望型ともに対象となります。	追記
	【積算例 1】※掘削(ICT)の施工数量 50,000m3 未満における積算 ICT 土工の全施工数量を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] で計上する事例	
	1) 当初積輝 (積資条件) 施工数量:10,000m3 ICT 標準作業量:330m3/日 施工班数:2 班 土質:土砂 施工方法:オープンカット 障害の有無:無し ①ICT 土工にかかる施工日数の算出 ・10,000m3 ÷ 330m3/日 ÷ 2 = 15.1 ⇒ 16日 ②掘削 (ICT) と掘削 (通常) の計上割合の設定	

掲 載 頁	現行	改定	コメント
		【積算例2】※掘削(ICT)の施工数量 50,000m3 未満における積算 ICT 土工の施工数量を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削(通常)に分けて計上する	追記
		事例	
		1) 当初積算	
		(積算条件)	
		施工数量:10,000m3	
		ICT 標準作業量:330m3/日	
		施工班数: 1 班	
		土質:土砂	
		施工方法:オープンカット	
		障害の有無:無し	
		①ICT 土工にかかる施工日数の算出	
		·10,000m3 ÷ 330m3/日 ÷ 1 = 30.3 ⇒ 31日	
		②掘削 (ICT) と掘削 (通常) の計上割合の設定	
		算定Uた31日は、「別紙-6 ICT活用工事(土工)積算要領J4-1 ② 表-1 施工数	
		量 50,000m3 未満における掘削(ICT)の計上割合から、「施工日数 20 日以上 60 日未満 とな	
		るため、掘削(ICT)の計上割合は、50%を設定する。	
		③施工数量の算出	
		·10,000m3 × 50% = 5,000m3 (ICT建機)	
		·10,000m3 - 5,000m3 = 5,000m3 (通常建機)	
		【設計書への反映】	
		土工 (ICT) の掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削 (通常) により、計上する。	
		設計書の計上(イメージ)	
		細別 単位 数量	
		掘削(ICT) [ICT建機使用割合100%] m3 5,000 掘削(通常) m3 5,000	
			1

掲載頁	現行	改 定	コメント
			\.£ -=
		【積算例 3】※掘削(ICT)の施工数量 50,000m3 未満における積算	追記
		ICT 土工の全施工数量の 25%を掘削 (ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として計上	
		する事例	
		1) 当初積算	
		(積算条件)	
		施工数量:20,000m3	
		ICT 標準作業量: 330m3/日	
		施工班数: 1班	
		土質: 土砂	
		施工方法:オープンカット	
		障害の有無:無し	
		①ICT 土工にかかる施工日数の算出	
		·20,000m3 ÷ 330m3/日 ÷ 1 = 60.6 ⇒ 61日	
		②掘削(ICT)と掘削(通常)の計上割合の設定	
		算定した61日は、「別紙-6 ICT活用工事 (土工) 積算要領」4-1 ② 表-1 施工数	
		量 50,000m3 未満における掘削 (ICT) の計上割合から、「施工日数 60 日以上」となるため、掘	
		削 (ICT) の計上割合は、25%を設定する。	
		③施工数量の算出	
		·20,000m3 × 25% = 5,000m3 (ICT建機)	
		·20,000m3 - 5,000m3 = 15,000m3 (通常建機)	
		【設計書への反映】	
		土工(ICT)の掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削(通常)により、計上する。	
		設計書の計上 (イメージ) 細別 単位 数量	
		細別 単位 数量 掘削 (ICT) [ICT建機使用割合100%] m3 5,000	
		掘削(通常) m3 15,000	
		2) 亦可味等 以市利中教皇亦高杉畑 中心	
		2) 変更積算 ※事例は数量変更が無い場合	
		④ICT 建機稼働率の確認・受注者から ICT 建機稼働率が確認できる資料の提出が有り、監督職員の確認が取れている場合は、	
		・文/工作かつ 10.1 建機体関学が唯認できる具件の提出が行り、監管職員の確認が取れている場合は、	

掲載頁	現行	改 定	コメント
掲載頁	現行	改 定 【積算例4】※掘削(ICT)の施工数量 50,000m3 以上における積算 ICT 土工の全施工数量の 25%を掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] の施工数量として計上する事例 1) 当初積算 (積算条件) 施工数量:50,000m3 ICT 標準作業量:330m3/日 施工班数:3班 土質:土砂 施工方法:オープンカット 障害の有無:無し ①施工数量の算出 ・50,000m3 × 25% = 12,500m3(ICT 建機) ・50,000m3 - 12,500m3 = 37,500m3(通常建機) 【設計書への反映】 土工(ICT)の掘削(ICT) [ICT 建機使用割合 100%] と掘削(通常)により、計上する。	追記